

たかはな

高花平小学校校長通信

平成21. 5. 18. (月)

No. 3

◎『自由』ということ◎

今回は少し堅い話になりますが、お付き合いください。子どもたちはよく『自由』という言葉を使います。『そんなことはばくの自由だ!』とか、『残った時間は自由にしてもいいですか?』というような感じです。きっとご家庭でも同じようなことを言うのではないのでしょうか。でも、子どもたちは多くの場合、『自由』という言葉の意味を間違って使っています。

『自由』という言葉は、『自(みずか)らに由(よ)る。』という意味です。簡単に言うと、『私は自分の考えや思いに従って行動します。万が一何か不都合があったり、人に迷惑をかけたりした時は、自分で責任を取ります。』とでも言えばいいのでしょうか。つまり、人に迷惑をかけたり、結果に対して責任が取れないような状況においては、『自由』ということは基本的に許されないのです。自由とは、決して『何でも思い通りに好き勝手にやってもいい。』ということではないのです。このあたりを、子どもたちは間違えていることが多いようです。いや、ひょっとしたら大人ですら分かってない人が多いのかもしれませんが、『自由』という言葉は、いつでも『義務』と『責任』というような言葉とセットで使うべきものです。そのことを、私たち大人がきちんと自覚するとともに、年齢に応じて子どもに分かるように教えてやらなければなりません。

社会[学校も社会の一つです]には、それぞれ個人の権利を保障するためにちゃんとルールやマナーがあります。『ルール』とは、みんなが守らなければならないきまり、『マナー』とは、みんなが守ったほうが気持ちいいこと・人として大切なこと、ということです。

本年度、高花平小学校では、『学年に応じた《ルール》と《マナー》を、きちんと子どもたちに教えていこう。』ということを、年度初めに全職員で確認しました。全職員が学年や学級の枠を超え、全児童に対して同じ指導をし、みんなが気持ちよく過ごせる高花平小学校を作っていこうということです。そんな学校を作っていくためには、地域の皆さん方や保護者の皆さん方の協力添えが大切になってきます。特にご家庭においては、子どもさんと相談して、『**必ず守るルール**』を一つでもいいから作って、子どもさんに守らせるようにしてみてもどうでしょうか。できれば子どもだけでなく大人にもあった方が、身をもって示すことができます。『ルールやマナーには意味があること』、そして『ルールやマナーを守ることが、みんなが楽しく過ごすための第一歩であること』を、ご家庭でもぜひお子さんと話してみてください。



☆シリーズいじめ①☆ ～いじめは犯罪～

『いじめ』……、私が最も嫌う言葉の一つです。いじめとは、『子どもが一定の人間関係のある者から、心理的・物理的攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。』と定義されます。つまり、した側が、『何だ、それくらい。』と思っても、された側が『苦痛を感じ』たら、それは『いじめ』です。言うまでもなく、いじめは『犯罪行為』です。殴ったりけったりすれば『暴行罪』あるいは『傷害罪』ですし、物を壊したりしたら『器物損壊罪』になるわけです。小学生は未成年ですから、成人のような刑事処分が下されることはありません。しかし、最近の『少年法の改正』によって、少年院送致の下限年齢が、『おおむね 12歳』に引き下げられました。ですから、分かりやすく言えば、いじめに限らず悪質な事案で、家庭裁判所が必要と判断すれば、小学校高学年からは少年院送致が行われる可能性があるということです。

まあ、そんなことは日常的にはめったにありませんが、『いじめは重大な人権侵害であり、犯罪行為である！』という認識は、みんなが持っていなければならないことだと思います。

また、時々『いじめられる側にも責任がある。』という言い方をすることがありますが、私たちは、そういう考え方をとりません。『私にも悪いところがあるからいじめられるんだ。』という気持ちが、被害者をさらに精神的に追い詰めてしまうことがあるからです。誰が何と言おうと、いじめは『いじめられる側が悪い』のです。

正直に申し上げますと、現在の高花平小学校にも『いじめ』があります。でも、

- ① 『いじめは絶対に許さない！』という強い気持ちを持って、全職員で指導を続ける。
- ② 『いじめ』によってつらい立場に立っている子は、必ず全職員で守る。
- ③ 『いじめ』に対しては、保護者・地域、場合によっては児童相談所や教育委員会とも連携をとって、根絶のために最大限の努力をする。

という3つについては、みなさんにお約束したいと思います。必要に応じてご相談させていただくことがあると思いますので、その際には、どうかよろしくお願いいたします。

～このシリーズは、ぜひ保護者の方と子どもさんとで、一緒にお読みください。～



はなし

ちよっといい話②

だいぶ慣れてきたとは言え、特に家が遠い 1年生にとって『登下校』というのは大変だと思います。疲れて、歩くのがゆっくりになってしまったりすることもあると思います。朝のあいさつをしながらそんな様子を見ていると、多くの高学年の子が、1年生の子に寄り添うように、一緒にゆっくりと様子を見ながら歩いていてくれます。きっと、『早く学校に行ってみんなと遊びたい。』という気持ちがあるでしょうが、高学年の責任感から、そんな歩き方をしてくれているんだと思います。当たり前のことと言ってしまうとそれまでですが、そんな光景を見ると、人として必要な『優しさ』や『思いやり』を感じて、気持ちの良い1日を始めることができるのです。